

阪南市埋蔵文化財報告 XXX

平野寺（長楽寺）跡

—国道26号バイパス（第二阪和国道）工事に伴う発掘調査概要報告—

2003年3月
阪南市教育委員会

はしがき

阪南市の幹線道路である国道26号線は、暮らしや産業を支える道として、多くの人に利用されていますが、現国道は2車線のため、府内でも有数の慢性的交通渋滞の国道になっています。

この渋滞解消のため、阪南市鳥取中から岬町淡輪間の9kmについて、バイパス（第二阪和国道）としての延伸が1988（昭和63）年に計画、事業認化されました。このうち鳥取中から箱作までの4.5kmが来月、部分開通することになっています。

この間、予定地内に存在する久保田遺跡、向出遺跡、向山遺跡、井関遺跡において、大阪府文化財調査研究センターによる発掘調査が行われました。とりわけ、向出遺跡においては、西日本最大級の縄文時代後期墓地群が発見される大きな成果がありました。

本書で報告する調査は、面積も上記遺跡に比べ少ですが、それなりの成果を得ることができました。

今回の調査に当たり、ご指導、ご協力いただきました関係者に対し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

2003年3月

阪南市教育委員会
教育長 川村一郎

例　　言

1. 本書は阪南市鳥取中所在の平野寺（長楽寺）跡発掘調査の概要報告書である。
2. 本書は国道26号バイパス（第二阪和国道）工事に伴い、工事の事前に調査を実施した。
3. 調査は国土交通省近畿地方整備局浪速国道工事事務所の依頼を受けて、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課三好義三、田中早苗、上野 仁を担当として、2001年9月～11月に実施した。
4. 調査にかかる費用は国土交通省近畿地方整備局浪速国道工事事務所の負担による。
5. 本書内で示した標高はT.P.であり、方位は既製の地形図などを使用したもの除去して磁北である。
6. 調査にあたっては、関係者の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
7. 本書の執筆、編集は、上記の調査担当者が行った。また、実測図などの作成は、下記の調査従事者による。
8. 本調査における記録は、実測図、写真、カラースライドなどに保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

（調査従事者）

松本武志、和田旬世、井上祥子、井上 進、上田妙子、芝 尚幸、頭師康一郎、
島田万帆

目　　次

第1章　調査に至る経過	1
第2章　歴史的環境	2
第3章　調査の成果	5
第4章　まとめ	14
遺物観察表	15

第1章 調査に至る経過

平野寺（長楽寺）跡は高田山丘陵の南に続く独立丘陵一帯と南西部の平地の一部が埋蔵文化財包蔵地になっている。

1983（昭和58）年に第二阪和国道が阪南市鳥取中の桜ヶ丘北交差点まで開通した当時は、丘陵の一部を削平したものの満足な調査は行われていない。今回の調査地は上記国道の上下線の中央分離帯内で、当時すでに道路用地として確保されていた。

1988（昭和63）年、その延伸である鳥取中から岬町淡輪間の9kmが事業化され、1997（平成9）年より本線工事が着工された。

1994年に阪南市教育委員会が行った鳥取中土地区画整理事業に伴う試掘調査では、今回の調査地の北に隣接している平坦部から弥生時代の遺構、遺物が検出されていることから、その範囲が南部にも拡がっていると懸念されていた。

今般、既存道路と新設道路を接続するための、橋脚設置工事にあたり、大阪府教育委員会文化財保護課、国土交通省近畿地方整備局浪速国道工事事務所と協議し、調査を行うこととなった。

調査はまず橋脚部の3ヶ所に2m×2mのトレンチを設定して行った。その結果2ヶ所のトレンチで遺構を、全トレンチで遺物を検出した。

上記の調査結果を踏まえ、浪速国道工事事務所と協議を重ね、上記トレンチを拡張し、橋脚で破壊される部分の調査を行うことになった。



第1図 阪南市位置図

第2章 歴史的環境

今回の調査区に北接する平野山は和泉山脈より派生した高田山丘陵のさらに南に続く独立丘陵で、東には金熊寺川、西には菟紙川が流れる。高田山丘陵上には後期の古墳が4基確認されていたが、満足な調査が行われないまま、開発によって消滅した。

平野山中からは以前より焼け爛れた古瓦が出土し、室町時代から安土桃山時代の五輪塔群が点在していたと伝えられる。

現在、平野山の北部に存在する平野山長楽寺は真言宗犬鳴派七宝滝寺末寺で、言い伝えによると天平年間、行基開基とされているが確証はない。中世期に根来寺に属していたため、天正13（1585）年豊臣秀吉の根来攻めで大利は焼け、江戸時代にはいり観音堂、庫裡のみが復興された。本尊の室町時代の作である十一面觀音菩薩立像は古来より秘仏で、善女童王、兩宝童子とともに奈良長谷寺と同じ構成になっている。

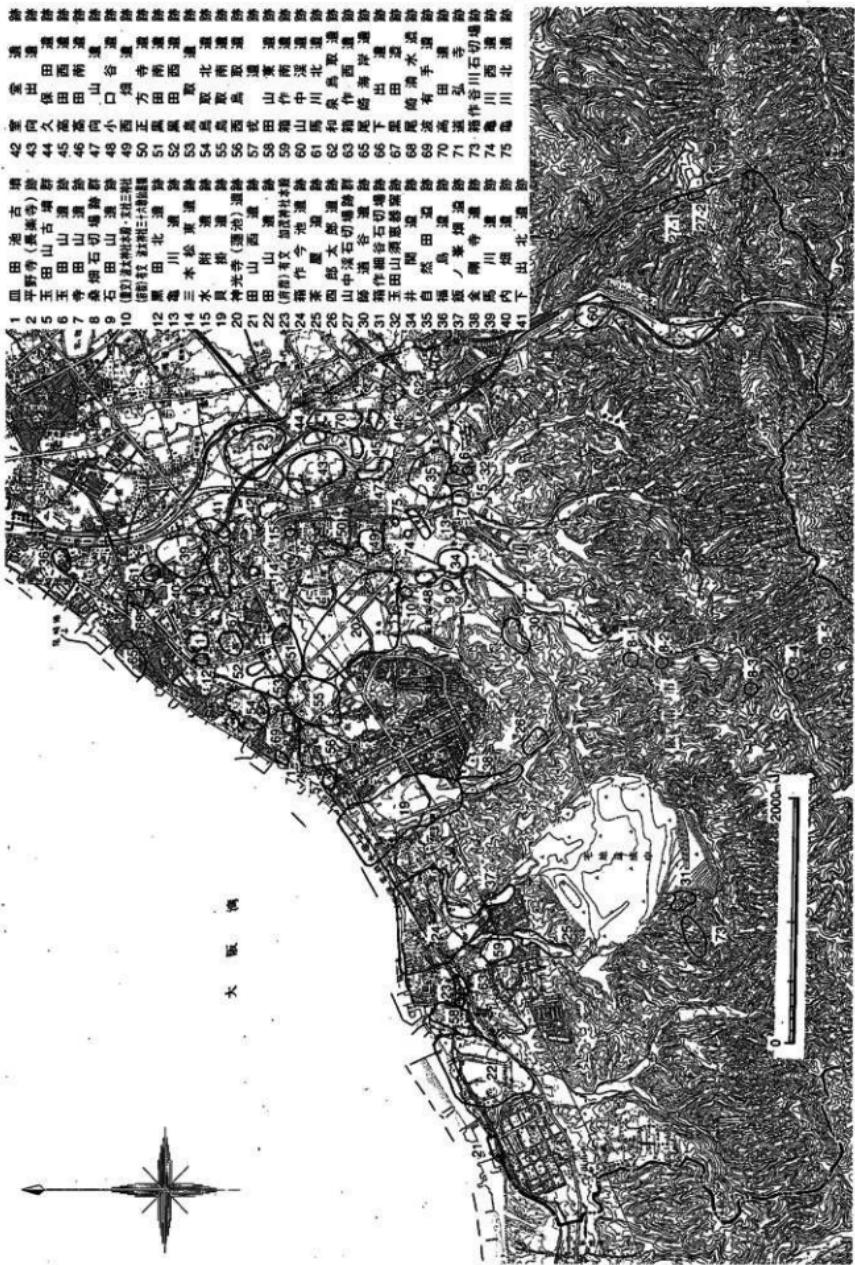
1970年より大阪府教育委員会によって行われた、府道東鳥取南海線の新設に伴う発掘調査では、石積み基壇、石積み遺構が検出され、建物跡の存在が確認された。瓦をはじめ鎌倉時代から室町時代の遺物が出土し、平野山寺院跡と関連付いたものと報告されている。

1994年より阪南市教育委員会が行った鳥取中土地区画整理事業に伴う発掘調査は、1970年の大阪府教育委員会が行った調査区の北側に隣接する。平安時代末期の遺物が若干と鎌倉時代以降の寺院に関連すると思われる遺構、遺物が大量に出土したことから、未だ整理途中ではあるが、文献資料や周辺の小字名などと考え合わせ、平野寺とは別の浄土宗明心寺の跡である可能性も考えられるようになった。また、丘陵南西の平地部分では、中世期の遺構、遺物と弥生時代後期の遺構、遺物が発見された。

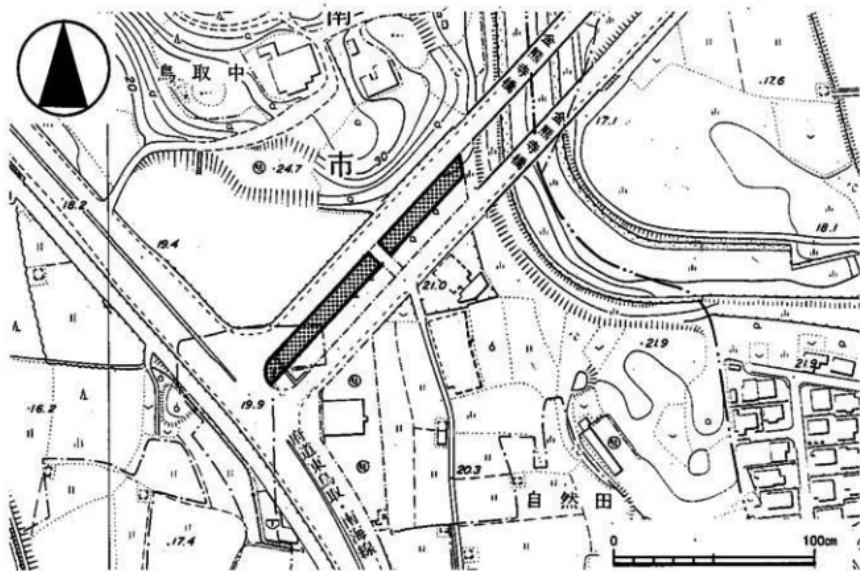
今回の調査区は、上記の調査で弥生時代の遺構、遺物が出土した地点よりさらに南に続く平坦部である。

参考文献

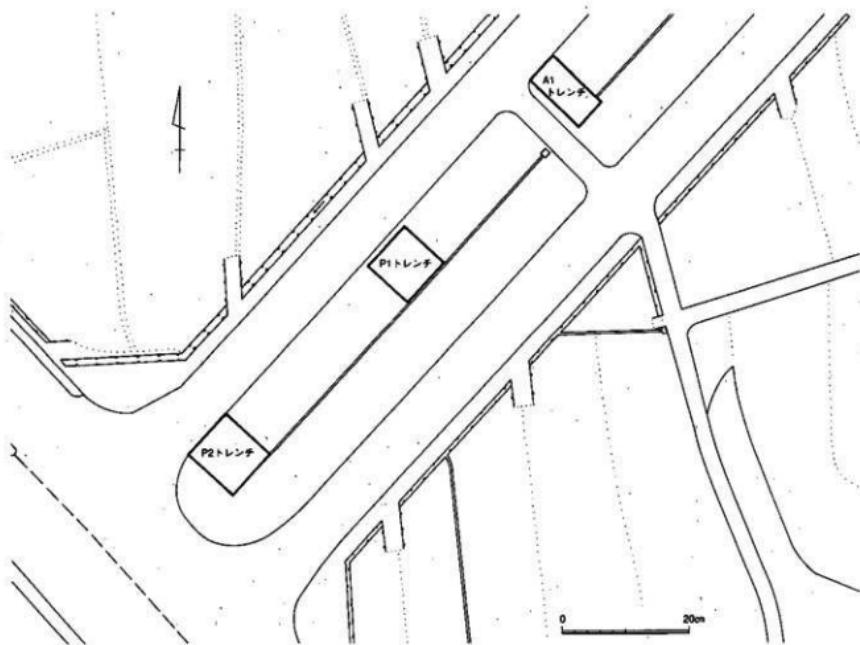
「東鳥取村史」	東鳥取役場	1958年
「和泉古代文化研究会会報」	和泉古代文化研究会	1970・1971年
「阪南町史」下巻	阪南町教育委員会	1977年
「淡輪磯山古墳群」	磯山古墳群調査会・攝河泉文庫	1980年
「阪南町史」上巻	阪南町教育委員会	1983年
「阪南市文化財状況調査報告書」	阪南市教育委員会	1994年



第2図 阪南市埋蔵文化財分布図



第3図 調査区 位置図



第4図 トレンチ 位置図

第3章 調査の成果

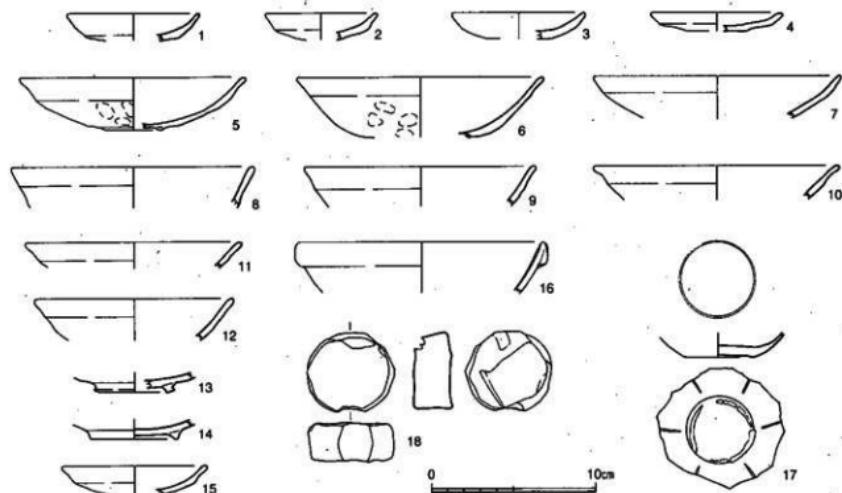
調査は橋脚設置で埋蔵文化財が破壊される部分3ヶ所について行った。それぞれの調査区は、西よりP2、P1、A1トレントとした。以下、これら3ヶ所のトレントごとに報告を行うこととする。なお、各トレントには約2mの盛土がなされていたが、断面図では省略している。

P2トレント（第4～6図）

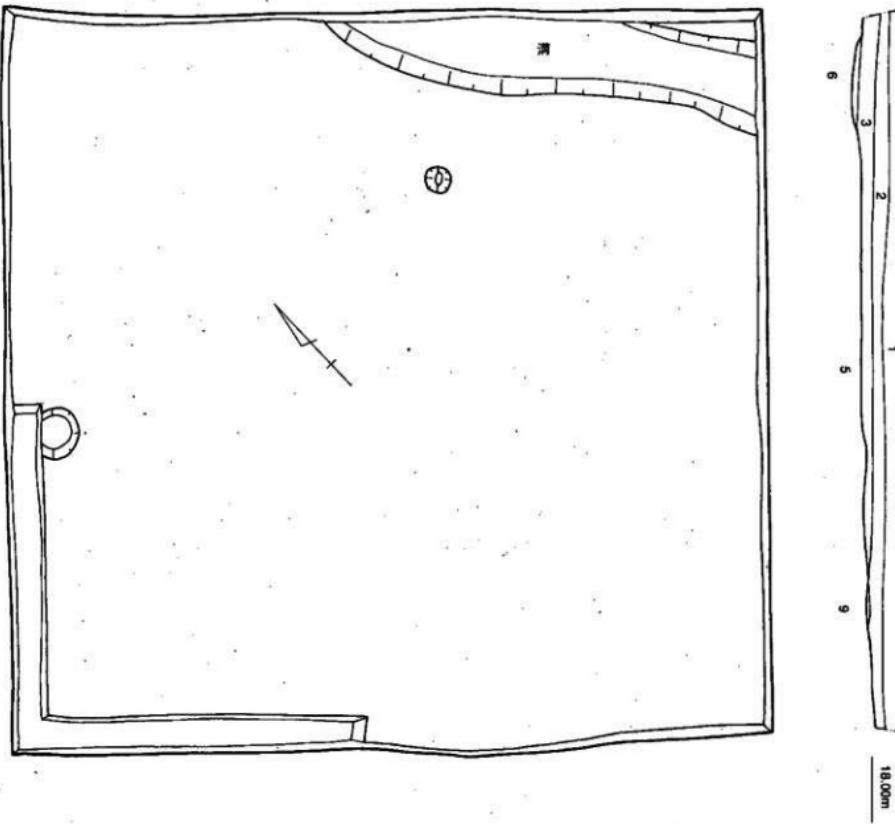
盛土を除く基本層序は第1層淡青灰色砂混粘土、第2層淡黄灰色砂混粘土、第3層淡褐灰色砂混粘土、第4層暗茶灰色土、第5層暗灰紫色粘土の地山である。

第1層から黒色土器、瓦器、土師質土器、青磁、白磁が出土した。第2層から若干の弥生土器、須恵器、サヌカイトが出土した。1～4は土師器小皿、5～15は瓦器の塊と小皿、16は白磁碗、17は青白磁輪花皿、18は丸く加工された平瓦である。すべて第1層から出土した。

遺構は溝、ピットを2検出したが、遺物が出土していないために時代などは不明である。

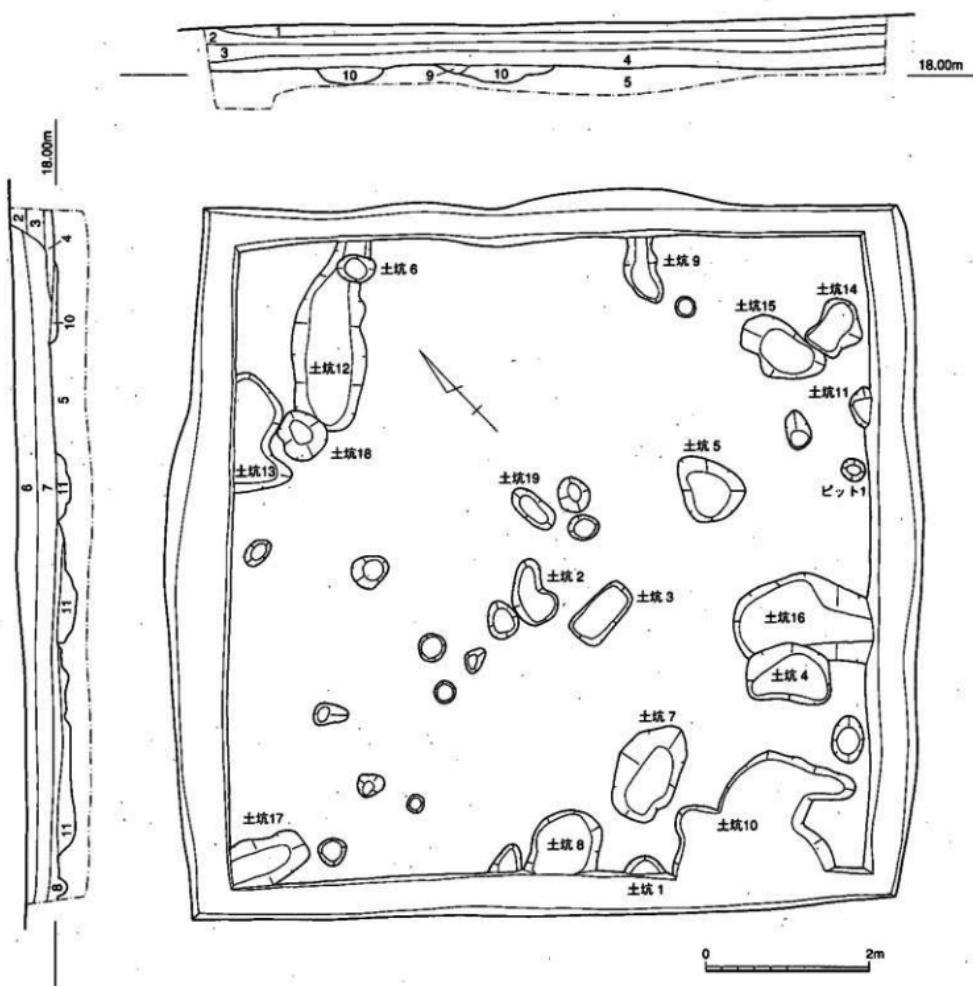


第5図 P2トレント 出土遺物



- 1 淡青灰色砂混粘土
- 2 淡黄灰色砂混粘土
- 3 淡褐灰色砂混粘土
- 4 喀茶灰色土
- 5 地山：暗灰紫色粘土
- 6 溝：淡青灰色砂
- 7 淡黄色粘土
- 8 灰オリーブ色砂
- 9 灰色砂（風化礫混）

第6図 P2 トレーンチ 平面図・断面図



- 1 黄灰色砂混粘土
- 2 橙灰色砂混粘土
- 3 明褐色砂混粘土
- 4 明茶灰色砂混粘土
- 5 地山：淡灰黄色粘土
- 6 落ち込み1：明黄色土
- 7 落ち込み1：灰色土
- 8 落ち込み1：明灰黄色土
- 9 土坑9：灰色粘土（淡黄色粘土混）
- 10 土坑12：淡茶色砂混粘土
- 11 土坑13：灰色粘土

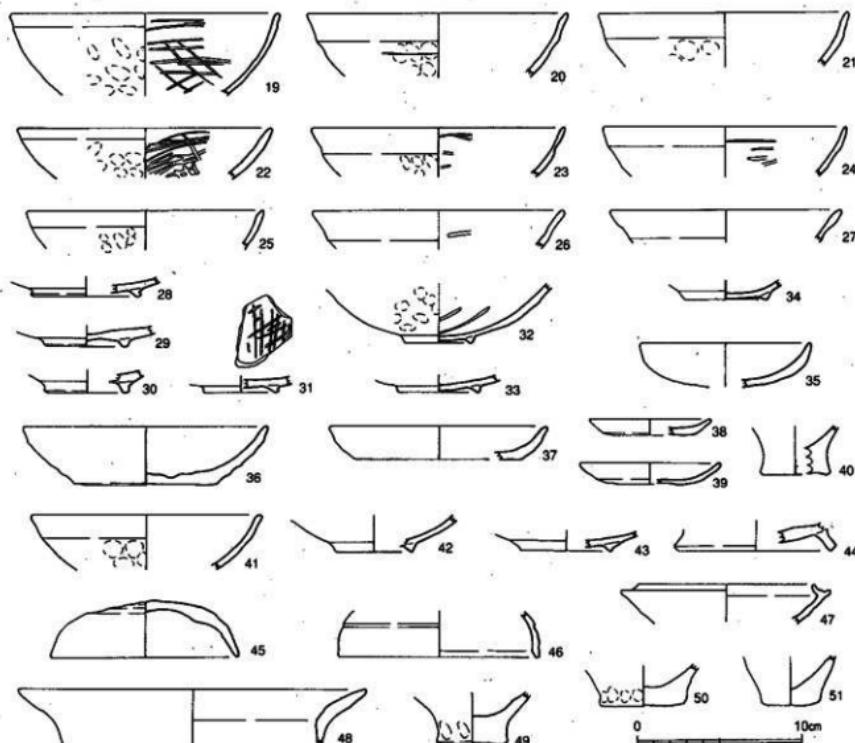
第7図 P1 トレンチ 平面図・断面図

P1 トレンチ (第4・7~11図)

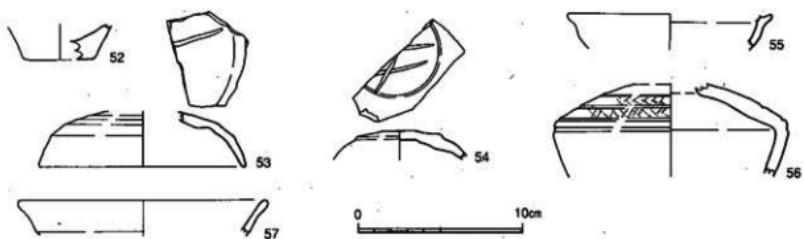
盛土を除く基本層序は第1層黄灰色砂混粘土、第2層橙灰色砂混粘土、第3層明橙灰色砂混粘土、第4層明茶灰色砂混粘土、第5層淡灰黄色粘土の地山である。

遺物は第1~4層より弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、白土器、瓦、土師質土錘、製塩土器が出土した。19~34は瓦器塊、35は白土器の皿、36~39は土師器で36は壺、37は皿、38・39は小皿、40は弥生土器の甕で、第1層から出土した。41~44は瓦器で41~43は塊、44は鉢である。45~47は須恵器で45・46は壺蓋、47は壺身、48~51は弥生土器の甕で、41~46は第2・3層から、47~51は第4層から出土した。

遺構は第1層上面で落ち込み1を、地山面で土坑、ピットを検出した。特徴的な遺構のみ以下に記す。



第8図 P1 トレンチ 包含層出土遺物



第9図 P1トレンチ 落ち込み1 出土遺物

落ち込み1（第7・9図）

北西方向への落ち込みで、盛土の削除後第1層上面で検出した。埋土は明黄色土、灰色土、明灰黄色土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、土師質土器などが出土した。52は弥生土器の甕、53～56は須恵器で53・54は壺蓋、55は壺身、56は壺の体部で、57は瓦器塊である。中世期の遺構と思われる。

土坑1（第7図）

東西0.48m以上、南北0.24m以上、深さ0.11m以上で、埋土は暗灰色粘土である。遺物は出土しなかった。

土坑2（第7図）

東西0.50m、南北0.78m、深さ0.15mで、埋土は淡灰色粘質土である。遺物は出土しなかった。

土坑3（第7・11図）

東西0.82m、南北0.43m、深さ0.19mで、埋土は淡灰色粘質土である。遺物は58のサヌカイト製石鎌が1点出土した。

土坑4（第7図）

東西0.99m以上、南北0.71m、深さ0.18mで、埋土は淡灰色粘質土である。遺物は出土しなかった。

土坑5（第7図）

東西0.74m、南北0.88m、深さ0.14mで、埋土は灰色粘土である。遺物は弥生土器が出土したが、図示できるものはなかった。

土坑6（第7図）

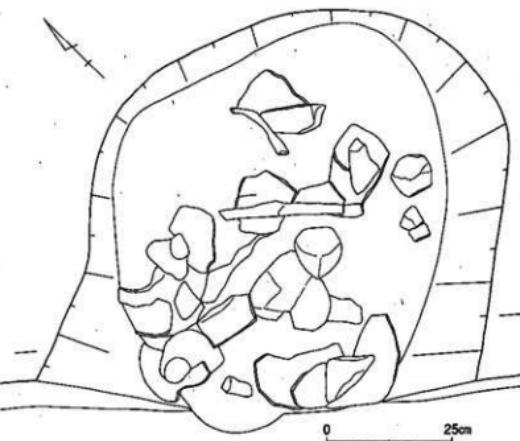
東西0.45m、南北0.32m、深さ0.04mで、埋土は灰色粘土である。遺物は出土しなかった。

土坑7（第7図）

東西1.22m、南北0.77m、深さ0.30mで、埋土は淡灰白色粘土である。遺物は弥生土器が出士したが、図示できるものはなかった。

土坑8（第7・10・11図）

東西0.40m、南北0.90m以上、深さ0.44mで、埋土は淡灰白色粘土である。遺物は弥生土器、石器、炭化物が出士した。59はサヌカイト製石鎌である。60～64は弥生土器の甕で、60と61は同一固体の可能性がある。



第10図 P1 トレンチ 土坑8 遺物出土状況

土坑9（第7・11図）

東西0.39m、南北0.81m以上、深さ0.20mで、埋土は灰色粘土である。遺物は弥生土器が出士した。図示できたのは65の弥生土器の甕である。

土坑10（第7図）

深さ0.31mの不定形土坑で、倒木痕と考えられる。埋土は暗灰色砂混粘土で、遺物は出土しなかった。

土坑11（第7図）

東西0.45m、南北0.30m以上、深さ0.20mで、埋土は灰色粘土である。遺物は出土しなかった。

土坑12（第7図）

東西0.89m、南北2.30m以上、深さ0.22mで、埋土は淡茶色砂混粘土である。遺物は出土しなかった。

土坑13（第7図）

東西1.20m以上、南北0.90m以上、深さ0.16mで、埋土は灰色粘土である。遺物は弥生土器が出士したが、図示できるものはなかった。

土坑14（第7図）

東西0.70m、南北0.69m、深さ0.11mで、埋土は灰色粘土である。遺物は出土しなかった。

土坑15（第7図）

東西1.08m、南北0.60m、深さ0.20mで、埋土は上層が淡茶黄色土である。下層が灰色粘土、遺物は出土しなかった。

土坑16（第7図）

東西1.08m、南北1.70m以上、深さ0.26mで、埋土は上層が灰色粘土、下層が淡茶色粗砂混粘土である。遺物は出土しなかった。

土坑17（第7図）

東西1.00m以上、南北0.65m、深さ0.16mで、埋土は淡灰白色粘土である。遺物は出土しなかった。

土坑18（第7図）

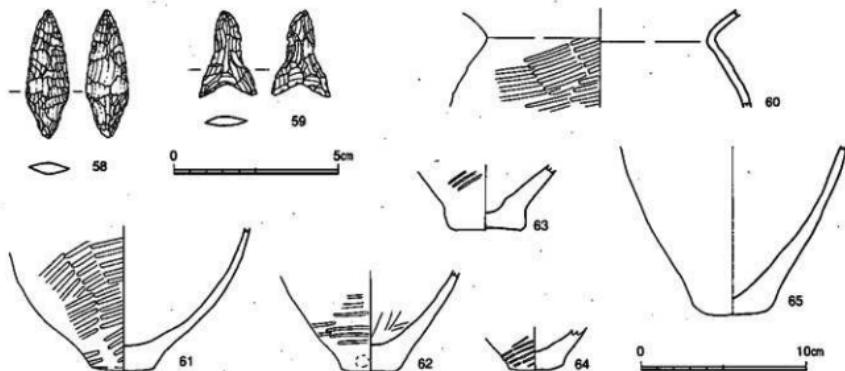
東西0.53m、南北0.59m、深さ0.11mで、埋土は淡橙色粗砂混粘土である。遺物は弥生土器が出土したが、図示できるものはなかった。

土坑19（第7図）

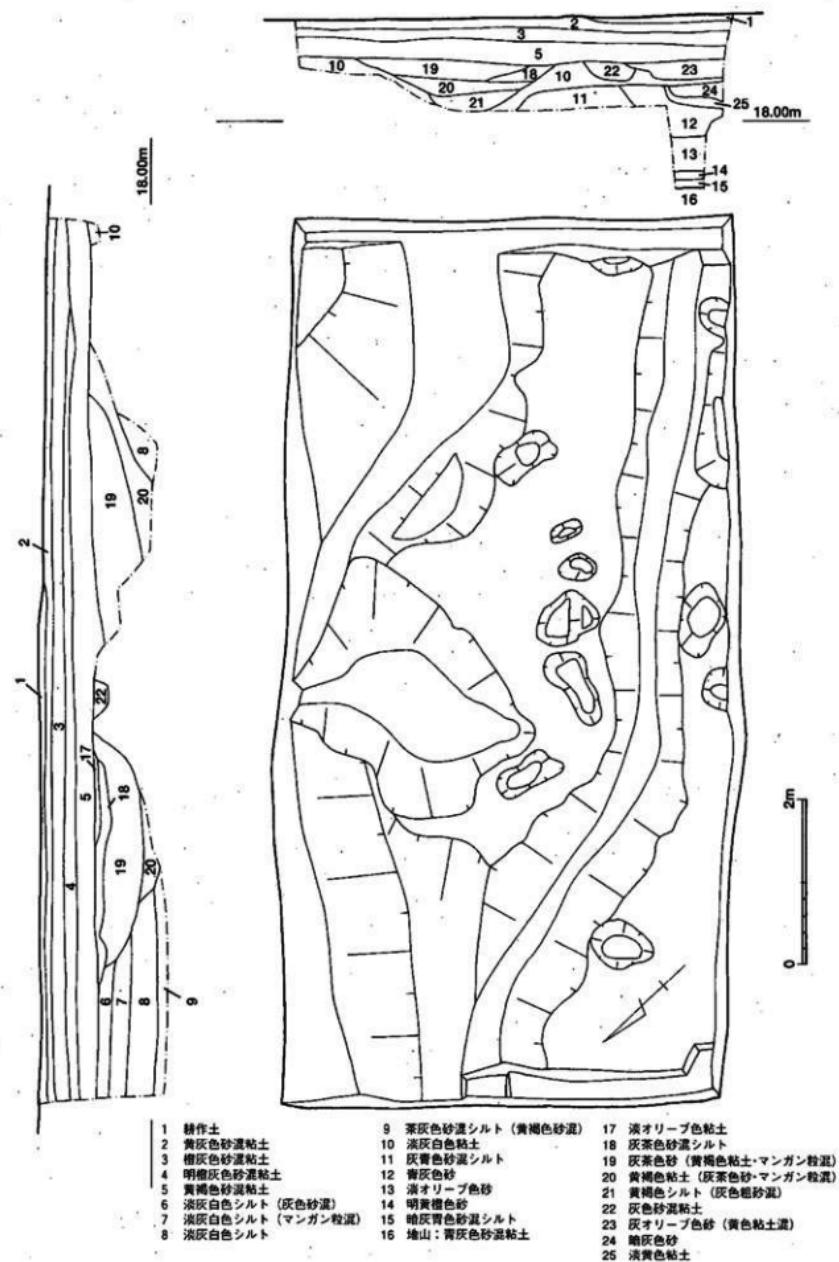
東西0.28m、南北0.61m、深さ0.18mで、埋土は淡色粘土である。遺物は出土しなかった。

ピット1（第7図）

数個のピットが検出されたが、遺物が出土したのはピット1のみであった。直径0.29m深さ0.12mで、埋土は暗灰色砂混粘土である。遺物は弥生土器が出土したが、図示できるものはなかった。



第11図 P1トレンチ 土坑3・8・9 出土遺物



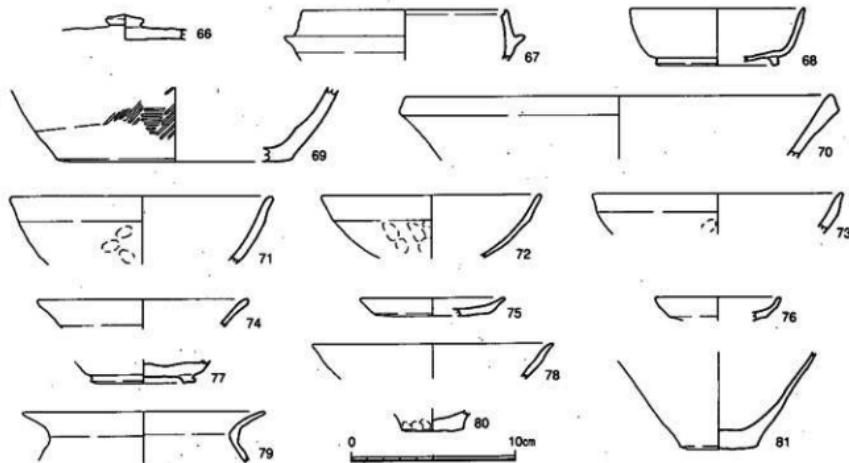
第12図 A1トレンチ 平面図・断面図

A1 トレンチ (第4・12・13図)

当トレンチは平野山丘陵の南端に当たり、東に金熊寺川が隣接する。

盛土を除く基本層序は第1層耕作土、第2層黄灰色砂混粘土、第3層橙灰色砂混粘土、第4層明橙灰色砂混粘土、第5層黄褐色砂混粘土で、以下は工事による掘削が及ばないこと、無遺物層の可能性が高いこと、崩落の危険性があることなどから、一部を機械掘削して地山を確認するとともめた。地山は青灰色砂混粘土で、最下層には多くの流木が含まれていた。また、第6層上面で土坑状のものと溝状のものを検出し、弥生土器、サヌカイトなどが出土したが、トレンチ全体が自然河川と考えられ、これらも自然河川の埋土と思われる。

出土遺物は以下のとおりである。66は須恵器坏蓋、67・68は須恵器坏身、69は須恵器壺、70は須恵質捏鉢である。71～75は瓦器の塊と小皿で、76は土師質小皿である。以上は第3層から出土した。77・78は第4層から出土した。77は須恵器坏身、78は瓦器塊である。79～81は第5層から出土した、弥生土器の甕である。



第13図 A1 トレンチ 出土遺物

第4章 まとめ

P 2 ドレンチで中世期の包含層（第1層）、弥生時代の包含層（第2・3層）を検出した。第4・5層は遺物が出土していないため時期は不明である。遺構も地山上面で数基検出したが、遺物が出土していないため時期などは不明である。

P 1 ドレンチでは中世期の包含層（第1～4層）と地山上面で多くの遺構を検出した。第1層から切り込む落ち込み1は中世期、地山上面の土坑とピットは全て弥生時代後期の遺構と思われる。ピットも多く検出したが、建物跡とは考えられない。特に土坑8からは多くの遺物が出土した。

A 1 ドレンチは中世期の包含層（第3・4層）、弥生時代の包含層（第5層）を検出した。

第6層上面で多くの土坑状のものと溝を検出したが、全体が自然河川の埋土と思われる。弥生時代以降、河川の流れは東に移動して土地も安定してくるものの、当時は生活の場というより湿地に近いものだったと思われる。その後、他ドレンチと同様、中世期に整地されたと考えられる。

遺物観察表

標物番号 追物番号	出土地点 層位	種類 器種	法量 (cm)	手・法		胎土	焼成	色調	備考
P2-1	淡青灰色砂混粘土	土師器 小皿	口 径 高 器 1.6	外面 口縁部 底部 内面 見込み	横ナデ 底部 指オサエ 横ナデ ナデ 見込み	やや粗	良	外 淡黄褐色 内 断 内 断	
P2-2	淡青灰色砂混粘土	土師器 小皿	口 径 高 器 1.6	外面 口縁部 底部 内面 見込み	横ナデ 底部 指オサエ 横ナデ ナデ 見込み	密	良好	外 にぶい橙色 内 断 内 断	
P2-3	淡青灰色砂混粘土	土師器 小皿	口 径 高 器 1.6	外面 口縁部 底部 内面 見込み	横ナデ 底部 指オサエ及びナデ 横ナデ ナデ 見込み	密	良	外 黄黒褐色 内 断 内 断 黑褐色	
P2-4	淡青灰色砂混粘土	土師器 小皿	口 径 高 器 1.1	外面 口縁部 底部 内面 見込み	横ナデ 底部 指オサエ及びナデ 横ナデ ナデ 見込み	密(細砂粒含む)	良好	外 にぶい橙色 内 断 内 断 淡黄褐色	
P2-5	淡青灰色砂混粘土	瓦器 塊	口 径 高 底 13.4 3.2 3.2	外面 口縁部 体部 高台部 内面 見込み	横ナデ 横ナデ 指オサエ 貼り付け横ナデ 磨滅のため調整不明	緻密	やや軟	外 黑色 内 断 内 断 灰白色	
P2-6	淡青灰色砂混粘土	瓦器 塊	口 径 高 器 3.6	外面 口縁部 体部 内面 磨滅のため調整不明	横ナデ 指オサエ	密	良好	外 黑色 内 断 内 断 灰色	
P2-7	淡青灰色砂混粘土	瓦器 塊	口 径 高 器 2.5	外面 口縁部 体部 内面 磨滅のため調整不明	横ナデ 指オサエ	密	やや軟	外 黑灰色 内 断 内 断 灰味灰白色	
P2-8	淡青灰色砂混粘土	瓦器 塊	口 径 高 器 2.4	外面 口縁部 体部 内面 磨滅のため調整不明	横ナデ 指オサエ	密	良好	外 黑色 内 断 内 断 灰色	
P2-9	淡青灰色砂混粘土	瓦器 塊	口 径 高 器 2.4	外面 口縁部 体部 内面 磨滅のため調整不明	横ナデ 指オサエ	緻密	やや軟	外 淡黄褐色 内 断 内 断	
P2-10	淡青灰色砂混粘土	瓦器 塊	口 径 高 器 2.1	外面 口縁部 体部 内面 磨滅のため調整不明	横ナデ 指オサエ	緻密	良好	外 黑灰褐色 内 断 内 断 灰白色	
P2-11	淡青灰色砂混粘土	瓦器 塊	口 径 高 器 1.5	外面 口縁部 体部 内面 磨滅のため調整不明	横ナデ 指オサエ	やや粗	良好	外 黑色 内 断 内 断 淡黄褐色	
P2-12	淡青灰色砂混粘土	瓦器 塊	口 径 高 器 2.5	外面 口縁部 体部 内面 磨滅のため調整不明	横ナデ 指オサエ	やや粗	良好	外 淡灰色 内 断 内 断 淡灰色	
P2-13	淡青灰色砂混粘土	瓦器 塊	器 底 高 径 1.2	外面 体部 高台部 内面 剥離のため調整不明	指オサエ 貼り付け横ナデ	密	良好	外 黑色 内 断 内 断 淡灰色	
P2-14	淡青灰色砂混粘土	瓦器 塊	器 底 高 径 1.1	外面 体部 高台部 内面 磨滅のため調整不明	指オサエ 貼り付け横ナデ	密	良	外 黑灰色 内 断 内 断 淡茶褐色	
P2-15	淡青灰色砂混粘土	瓦器 小皿	口 径 高 器 1.7	外面 口縁部 底部 内面 磨滅のため調整不明	横ナデ 指オサエ及びナデ	やや粗	良	外 黑灰色 内 断 内 断 淡灰色	
P2-16	淡青灰色砂混粘土	白磁 碗	口 径 高 器 3.1	外内面共 口縁部 王線	施釉	密	極く良好	釉 淡緑味灰色 断 淡灰白色	
P2-17	淡青灰色砂混粘土	青白磁 輪花皿	器 底 高 径 4.15	外面 底部 内面 見込み	施釉 輪花 露胎 施釉 沈織	緻密	極く良好	釉 青味白色 白色 露 黄褐味白色	底部に重ね 焼き痕有り
P2-18	淡青灰色砂混粘土	平瓦	縱 横 厚 さ 1.3	4.8 5.2 1.3	円盤状に削られている	密	良	乳白茶色	
P1-19	黄灰色砂混粘土	瓦器 塊	口 径 高 器 4.9	外面 口縁部 体部 内面 ヘラミガキ	横ナデ 指オサエ	密	良好	外 鎌黑色 内 断 内 断 灰白色	
P1-20	黄灰色砂混粘土	瓦器 塊	口 径 高 器 3.8	外面 口縁部 体部 内部 磨滅のため調整不明	横ナデ 指オサエ	密	良好	外 黑色 内 断 内 断 黄褐色	

探査番号 遺物番号	出土地点 層位	種類 器種	法量 (cm)	手法	胎土	焼成	色調	備考
P1-21	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	口 径 高 器 高 3.2	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内部 磨減のため調整不明	密(細砂粒含む)	良	外 内 断 暗灰色 淡灰色	
P1-22	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	口 径 高 器 高 3.0	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内面 ヘラミガキ	密	良好	外 内 断 鉛黒色 白灰色	
P1-23	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	口 径 高 器 高 2.9	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内面 ヘラミガキ	密	良好	外 内 断 鉛黒色 白灰色	
P1-24	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	口 径 高 器 高 3.0	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内面 ヘラミガキ	密	良好	外 内 断 鉛黒色 灰白色	
P1-25	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	口 径 高 器 高 2.3	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内面 磨減のため調整不明	密	良	外 内 断 黒灰色 黄褐色	
P1-26	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	口 径 高 器 高 2.3	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内面 ヘラミガキ	やや粗	良	外 内 断 黑色 灰色	
P1-27	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	口 径 高 器 高 1.9	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内面 磨減のため調整不明	密	良好	外 内 断 黑色 淡灰黃褐色	
P1-28	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	器 底 径 高 度 6.6	外面 高台部 貼り付け横ナデ 内面 磨減のため調整不明	密	良	外 内 断 黑色 淡黃褐色	
P1-29	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	器 底 高 径 5.1	外面 高台部 貼り付け横ナデ 内面 磨減のため調整不明	やや粗	良好	外 内 断 黑色 淡灰色 黄褐色	
P1-30	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	器 底 高 径 5.1	外面 高台部 貼り付け横ナデ 内面 磨減のため調整不明	密	良	外 内 断 黑色 灰白色	
P1-31	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	器 底 高 径 4.4	外面 高台部 貼り付け横ナデ 内面 ヘラミガキ	密	良好	外 内 断 黑色 淡灰色	
P1-32	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	器 底 高 径 4.0	外面 体部 指オサエ 高台部 貼り付け横ナデ 内面 ヘラミガキ	やや粗	良好	外 内 断 黒灰色 淡黒灰色 淡灰色	
P1-33	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	器 底 高 径 5.0	外面 体部 指オサエ 高台部 貼り付け横ナデ 内面 磨減のため調整不明	密	良	外 内 断 黑色 淡灰色	
P1-34	黄灰色砂混粘土	瓦器塊	器 底 高 径 4.8	外面 高台部 貼り付け横ナデ 内面 磨減のため調整不明	密	良	外 内 断 黑色 黄褐色	
P1-35	黄灰色砂混粘土	白土器皿	口 径 高 器 高 10.2 2.65	外面 磨減のため調整不明 内面	緻密	やや軟	外 内 断 乳白色 乳黃褐色	
P1-36	黄灰色砂混粘土	土師器塊	口 径 高 器 底 径 14.7 3.7 8.2	外面 横ナデ 底部 未調整 内面 横ナデ	緻密(小石含む)	やや軟	外 内 断 乳黃白色 乳黃褐色	
P1-37	黄灰色砂混粘土	土師器塊	口 径 高 器 高 13.0 2.0	外面 横ナデ 底部 未調整 内面 横ナデ	緻密	やや軟	外 内 断 乳黃白色 淡橙色	
P1-38	黄灰色砂混粘土	土師器小皿	口 径 高 器 高 7.2 0.95	外面 磨減のため調整不明 内面	密	やや軟	外 内 断 淡橙白色 。	
P1-39	黄灰色砂混粘土	土師器小皿	口 径 高 器 高 8.4 1.3	外面 口縁部 横ナデ 底部 指オサエ 内面 口縁部 横ナデ 見込み 磨減のため調整不明	やや粗	良好	外 内 断 黃褐色 。	
P1-40	黄灰色砂混粘土	弦生 裏	器 底 高 径 2.9 4.2	外面 磨減のため調整不明 内面	密(細砂粒含む)	良好	外 内 断 暗橙褐色 淡橙色 黃褐色	

探査番号 遺物番号	出土地点 層位	種類 器種	法量 (cm)	手法	胎土	焼成	色調	備考
P1-41	橙灰色砂混粘土 明橙灰色砂混粘土	瓦器 塊	口 径 13.8 高 度 4.3	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内面 磨減のため調整不明	密	良	外 黒色 内 断 灰白色	
P1-42	橙灰色砂混粘土 明橙灰色砂混粘土	瓦器 塊	器 底 高 度 2.2 径 4.6	外面 体部 高台部 貼り付け横ナデ 内面 横格子状へラミガキ残るが 磨減のため不鮮明	密	良	外 黑灰色 内 断 灰白色	
P1-43	橙灰色砂混粘土 明橙灰色砂混粘土	瓦器 塊	器 底 高 度 1.2 径 5.4	外面 体部 高台部 磨減のため調整不明 内面 磨減のため調整不明	やや粗	良	外 黑灰色 内 断 黄褐色	
P1-44	橙灰色砂混粘土 明橙灰色砂混粘土	瓦器 鉢	器 底 高 度 1.7 径 9.2	外面 高台部 貼り付け横ナデ 内面 体部 見込み 横ナデ 指オサエ	やや粗	良好	外 黑灰色 内 断 灰色	
P1-45	橙灰色砂混粘土 明橙灰色砂混粘土	須恵器 坏盤	口 径 11.2 高 度 3.5	外面 口縁部 天井部 回転へラ削り 内面 口縁部 天井部 ナデ	密(長石含む)	良好	外 黑灰色 内 断 。	
P1-46	橙灰色砂混粘土 明橙灰色砂混粘土	須恵器 坏盤	口 径 12.0 高 度 2.8	外面 横ナデ 内面 *	やや粗	良好	外 灰色 内 断 灰褐色 。	
P1-47	明茶灰色砂混粘土	須恵器 坏身	口 径 10.6 高 度 2.4	外面 横ナデ 内面 *	密(細砂粒含む)	優(良好)	外 灰色 内 断 灰白色	
P1-48	明茶灰色砂混粘土	弦生 甕	口 径 20.8 高 度 3.4	外面 刺離のため調整不明 内面 *	やや密(砂粒含む)	良	外 淡褐色 内 断 。	
P1-49	明茶灰色砂混粘土	弦生 甕	器 底 高 度 3.1 径 4.2	外面 体部 磨減のため調整不明 体下部 指オサエ 底部 調整のため調整不明 内面 磨減のため調整不明	やや密(砂粒含む)	良好	外 橙色 内 断 淡褐色	
P1-50	明茶灰色砂混粘土	弦生 甕	器 定 高 度 2.5 径 5.3	外面 体部 指オサエ 内面 磨減のため調整不明	やや密(砂粒含む)	良好	外 暗褐色 内 断 橙色	
P1-51	明茶灰色砂混粘土	弦生 甕	器 底 高 度 3.0 径 3.6	外面 磨減のため調整不明 内面 *	粗(砂粒含む)	良好	外 にぶい橙色 内 断 黒褐色 黄褐色	
P1-52	落ち込み 1	弦生 甕	器 底 高 度 2.1 径 4.4	外面 磨減のため調整不明 内面 *	密(細砂粒含む)	良	外 橙色 内 断 。	底部に 黒斑有り
P1-53	落ち込み 1	須恵器 坏盤	口 径 12.4 高 度 3.3	外面 口縁部 横ナデ 天井部 回転へラ削り 内面 横ナデ	密(長石含む)	良好	外 灰白色 内 断 。	外面天井部に へラ記号 自然釉
P1-54	落ち込み 1	須恵器 坏盤	器 高 度 1.7	外面 体部 横ナデ 天井部 回転へラ削り 内面 体部 横ナデ 天井部 ナデ	密	良好	外 灰白色 内 断 。	外面天井部に へラ記号
P1-55	落ち込み 1	須恵器 坏身	器 高 度 2.1	外面 横ナデ 内面 *	密	良好	外 灰色 内 断 暗灰色 断 灰色	
P1-56	落ち込み 1	須恵器 長颈甕	器 高 度 5.6	外面 横ナデ 内面 横ナデ 沈線 楠描文 横ナデ	やや粗	良好	外 灰色 内 断 。	
P1-57	落ち込み 1	瓦器 塊	口 径 14.8 高 度 2.1	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内部 磨減のため調整不明	やや粗	良	外 淡灰色 内 断 。	
P1-58	土坑3	サヌカイト 石錐	たて 横 厚さ 3.9 — 1.3 0.35	木製形錐				ほぼ完型
P1-59	土坑8	サヌカイト 石錐	たて 横 厚さ 2.65 — 1.75 0.3	凹基無茎錐				ほぼ完型
P1-60	土坑8	弦生 甕	口 径 6.9	外面 口縁部 横ナデ 内面 体部 横部 指き 横ナデ 体部 ナデ	密(砂粒含む)	良	外 灰褐色 内 断 。	外面煤付着

探査番号 遺物番号	出土点 層位	種類 器 器	法量 (cm)	手法	胎土	焼成	色調	備考	
P1-61	土坑8	弥生 甕	器底 高径 8.9 3.8	外面 体部 底部 内面 ナデ	叩き ナデ	密(砂粒含む)	良	外 暗茶灰褐色 内 断 淡白茶灰色	
P1-62	土坑8	弥生 甕	器底 高径 6.1 3.7	外面 体部 底部 内面 板ナデ	叩き 指オサエ 未調整	密(砂粒含む)	良	外 淡茶白灰色 内 黑色 断 暗灰褐色	
P1-63	土坑8	弥生 甕	器底 高径 3.9 4.9	外面 体部 底部 内面 板ナデ	叩き ナデ 指オサエ 磨滅のため調整不明	やや粗(砂粒含む)	良	外 淡茶白灰色 内 黑色 断 暗灰褐色	
P1-64	土坑8	弥生 甕	器底 高径 2.6 3.3	外面 体部 底部 内面 板ナデ	叩き ナデ	密(砂粒含む)	良好	外 黑褐色 内 暗灰褐色 断 淡灰色	
P1-65	土坑9	弥生 甕	器底 高径 9.7 4.8	外面 体部 内面 剥離のため調整不明	叩き痕有り 剥離のため調整不明	粗(砂粒含む)	良	外 淡橙色 内 断	
A1-66	橙灰色砂泥粘土	須恵器 壺蓋	つまみ径 器 高 2.25 1.5	外面 つまみ 内面 横ナデ	回転ヘラ削り 貼り付け横ナデ	やや粗(細砂粒含む)	やや軟	外 淡灰色 内 断 黄淡灰色	
A1-67	橙灰色砂泥粘土	須恵器 壺身	口 径 器 高 12.3 3.1	外面 口縁部 体部 内面 横ナデ	横ナデ 沈線 回転ヘラ削り	やや粗(細砂粒含む)	良好	外 灰白色 内 断 褐灰色	
A1-68	橙灰色砂泥粘土	須恵器 壺身	口 径 器 高 10.5 3.5	外面 口縁部 底部 内面 横ナデ 見込み	横ナデ 回転ヘラ削り 高台貼り付け 横ナデ	密	良好	外 灰色 内 断	
A1-69	橙灰色砂泥粘土	須恵器 壺	口 径 器 底 4.5 14.2	外面 体部 底部 内面 見込み	体部 底部 未調整 ナデ 横ナデ	平行叩き ヘラ削り	密	良好	外 灰色 内 灰白色 断
A1-70	橙灰色砂泥粘土	須恵器 東播系 捏鉢	口 径 器 高 25.8 3.9	外面 横ナデ 内面	。	やや粗	良好	外 灰色 内 断	
A1-71	橙灰色砂泥粘土	瓦器 壺	口 径 器 高 15.6 4.1	外面 口縁部 体部 内面 剥離のため調整不明	横ナデ 指オサエ	密(細砂粒含む)	良好	外 黑色 内 断 黄褐色	
A1-72	橙灰色砂泥粘土	瓦器 壺	口 径 器 高 13.2 3.7	外面 口縁部 体部 内面 剥離のため調整不明	横ナデ 指オサエ	やや粗	良	外 淡橙黃褐色 内 断	
A1-73	橙灰色砂泥粘土	瓦器 壺	口 径 器 高 15.0 2.4	外面 口縁部 体部 内面 剥離のため調整不明	横ナデ 指オサエ	密	良	外 黑灰色 内 断 灰白色	
A1-74	橙灰色砂泥粘土	瓦器 壺	口 径 器 高 12.6 1.7	外面 口縁部 体部 内面 剥離のため調整不明	横ナデ 指オサエ	やや粗	良	外 黑褐色 内 断 淡灰色	
A1-75	橙灰色砂泥粘土	瓦器 壺	口 径 器 高 8.6 1.1	外面 口縁部 底部 内面 磨滅のため調整不明	横ナデ 指オサエ	やや粗(片岩含む)	良	外 黑灰色 内 断 黑灰色	
A1-76	橙灰色砂泥粘土	土師器 小皿	口 径 器 高 7.4 1.4	外面 内面 風化のため調整不明 。	。	緻密	良	外 乳黃白色 内 断 淡橙白色	
A1-77	明橙灰色砂泥粘土	須恵器 壺身	器 底 高径 1.4 6.3	外面 体部 底部 内面 横ナデ	横ナデ ヘラ切り 高台貼り付け	密(長石含む)	良好	外 暗灰色 内 断 紫灰色	
A1-78	明橙灰色砂泥粘土	土師器 壺	口 径 器 高 14.4 2.1	外面 内面 剥離のため調整不明 。	。	密(細砂粒含む)	良	外 黄褐色 内 断 黑灰色	
A1-79	黄褐色砂泥粘土	弥生 甕	口 径 器 高 14.6 3.1	外面 内面 剥離のため調整不明 。	。	密(粗砂粒含む)	良	外 淡橙色 内 断	
A1-80	黄褐色砂泥粘土	弥生 甕	器 底 高径 1.3 3.7	外面 体部 底部 内面 未調整 磨滅のため調整不明	指オサエ タタキ 磨滅のため調整不明 。	密(細砂粒含む)	良	外 にぶい橙色 内 淡黄橙白色 断	
A1-81	黄褐色砂泥粘土	弥生 甕	器 底 高径 5.9 4.6	外面 内面 剥離のため調整不明 。	。	やや粗(長石含む)	良	外 黄茶褐色 内 淡茶褐色 断	



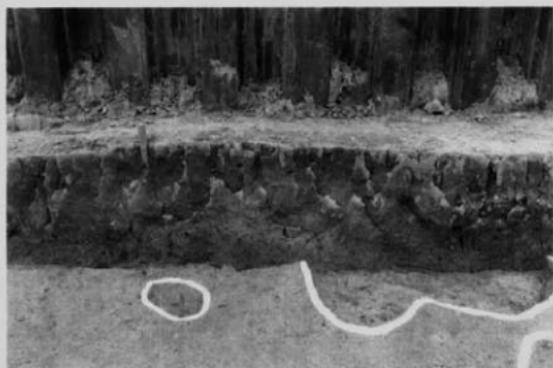
P2 トレンチ 全景（北東より）



P2 トレンチ 東側断面



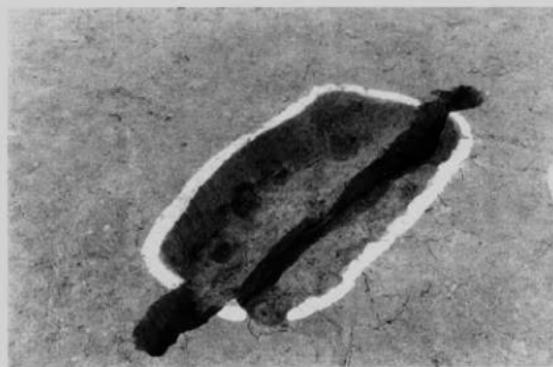
P1 トレンチ 全景（北東より）



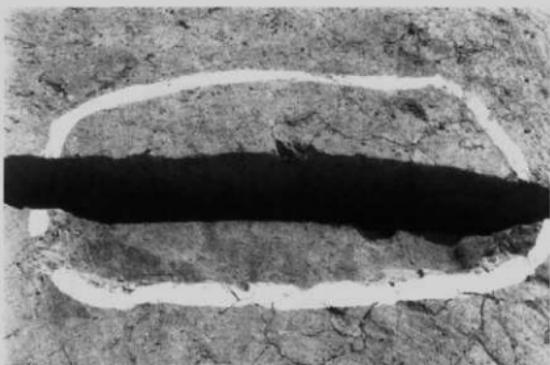
P1 トレンチ 西側断面



P1 トレンチ 北側断面



P1 トレンチ 土坑 3 (東より)



P1 トレンチ 土坑3（北より）



P1 トレンチ 土坑7（北東より）



P1 トレンチ 土坑8（北東より）



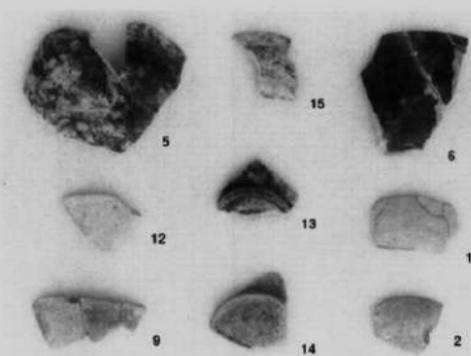
A1 トレンチ 全景（東より）



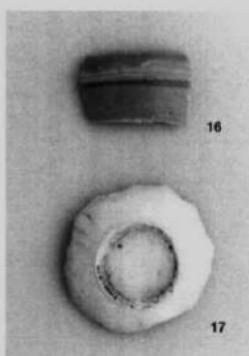
A1 トレンチ 東側断面



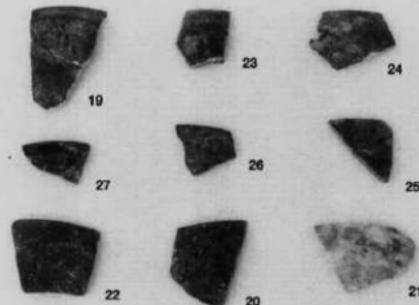
A1 トレンチ 北側断面



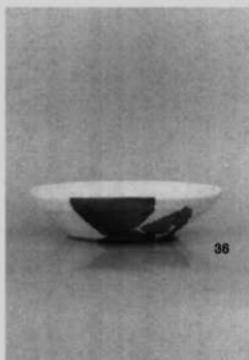
P2 トレンチ 淡青灰色砂混粘土



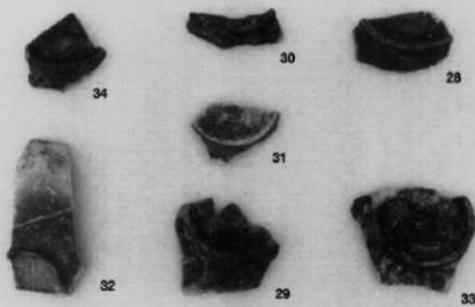
P2 トレンチ 淡青灰色砂混粘土



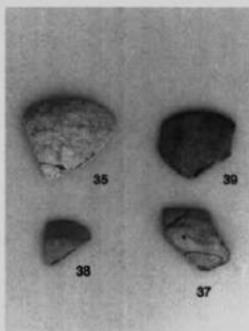
P1 トレンチ 黄灰色砂混粘土



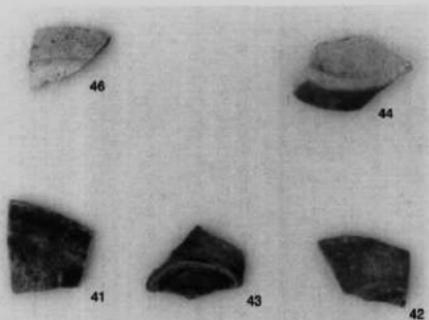
P1 トレンチ 黄灰色砂混粘土



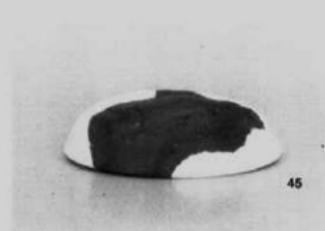
P1 トレンチ 黄灰色砂混粘土



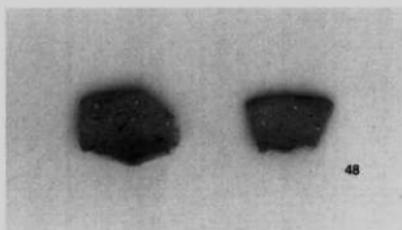
P1 トレンチ 黄灰色砂混粘土



P1 トレンチ 橙灰色砂混粘土
明橙灰色砂混粘土



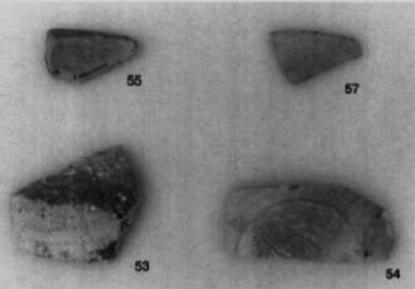
P1 トレンチ 橙灰色砂混粘土
明橙灰色砂混粘土



P1 トレンチ 明茶灰色砂混粘土



P1 トレンチ 明茶灰色砂混粘土



P1 トレンチ 落ち込み 1

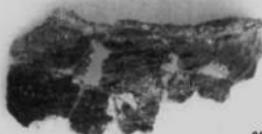
P1 トレンチ 落ち込み 1



58



59



60

P1 トレンチ 土坑 3

P1 トレンチ 土坑 8

P1 トレンチ 土坑 8



61

P1 トレンチ 土坑 8



62

P1 トレンチ 土坑 8



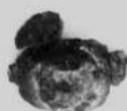
63

P1 トレンチ 土坑 8



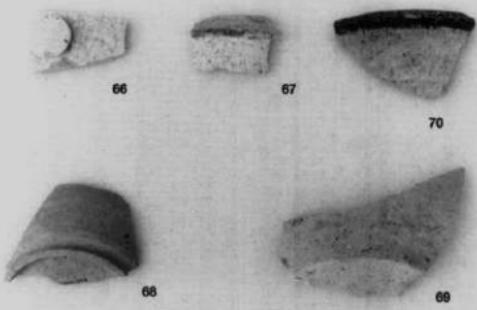
65

P1 トレンチ 土坑 9

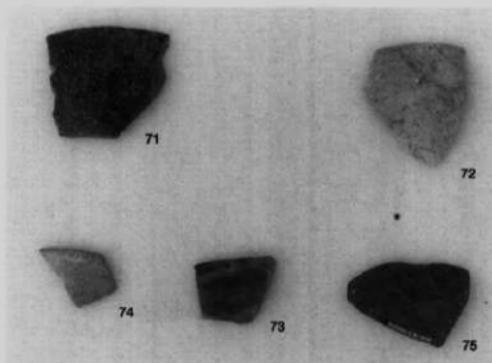


64

P1 トレンチ 土坑 8



A1 トレンチ 橙灰色砂混粘土



A1 トレンチ 橙灰色砂混粘土



A1 トレンチ 明橙灰色砂混粘土

A1 トレンチ 黄褐色砂混粘土

報告書抄録

ふりがな	ひらのでら（ちょうらくじ）あと							
書名	平野寺（長楽寺）跡							
副書名	国道26号バイパス（第二阪和国道）工事に伴う発掘調査概要報告							
巻次								
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告							
シリーズ番号	XXX							
編著者名	三好義三・田中早苗・上野 仁							
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課							
所在地	〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 Tel 0724-71-5678							
発行年月日	2003年3月31日							
所収遺跡名 ふりがな	所在地 ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村番号	遺跡番号	° / ′ / ″	° / ′ / ″		m ²	
平野寺 (長楽寺) 跡	阪南市 鳥取中	37232	2	34° 20' 57"	135° 15' 47"	2001. 9.27~ 11.1	210	道路
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
平野寺 (長楽寺) 跡	寺社・散布地	弥生～中世	土坑・溝・ 落ち込み・ ピット・自然河川		石器・弥生土器・ 土師器・須恵器・ 黒色土器・瓦器・ 青磁			

阪南市埋蔵文化財報告 XXX

平野寺（長楽寺）跡

—国道26号バイパス（第二阪和国道）工事に伴う発掘調査概要報告—

2003年3月

発行：阪南市教育委員会生涯学習部
生涯学習推進課
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社
和歌山市吹屋町5丁目54